



No.40

UT University Forests News

科学の森ニュース

December 10, 2007

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

旭川「森林の市(もりのいち)」に初めて出店しました

北海道演習林

旭川で2007年8月19日(日)に開催された「森林の市」に初めて出展し、ポスターの展示、パンフレットの配布および各種林産物の販売を行いました。

展示した大きなマカバの円板やシカの角に興味を持って立ち止まったお客さんに、職員がパンフレットを渡して演習林の紹介を行いました。

販売品で人気の高かったのは銘木円板でした。購入者のなかには円板をドンコロ(短い丸太の切れ端)と組み合わせてテーブルを作ると話している人もおり、木工材料としての人気がありました。また、希望に応じてチェーンソーでカットするサービスも行ないました。

一般の方で北海道演習林を知っている人は少ないようでしたので、身近に感じていただく良い機会となりました。



森からの展示販売物の数々

「科学の森ニュース」のバックナンバー(PDF形式)は東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/)

130TH ANNIVERSARY SUMMER SCHOOL 東大の森へ行こう。

秩父演習林

東京大学創立 130 周年を記念して、高校生と先生を対象とする公開講座が 2007 年 9 月 1 日（土）～2 日（日）に秩父演習林を舞台として行われました。森の機能について広く学ぼうという趣旨のもと、ダムで水源涵養機能の説明を受けたり、森を歩いて生き物とふれあったり、地元林業家の方のお話を伺ったり、丸太を運ぶ木馬（きんま）をひく体験をしたり…と盛りだくさんの内容でした。参加者は 3 組 7 名と少なめでしたが、皆さん楽しんでおられたようです。開催にあたり大勢の秩父演習林サポーターや地元の方々にご協力を頂きました。



みんなで力を合わせて「せーのっ!!!」(木馬^{きんま}ひき体験)

公開講座「天津小学校 緑の教室」

千葉演習林

2007 年 10 月 19 日（金）に清澄作業所管内で公開講座「天津小学校 緑の教室」が行われ、地元の天津小学校 5 年生 24 名と保護者の皆さんに、森林の機能や計測方法・動植物について学んでもらいました。普段と違い、学校の教室ではなく森の中で五感をフルに使って学習・体験してもらうことで、児童の皆さんにとっては新鮮な刺激となったようです。保護者の皆さんからは「いつもは虫もさわれない子が、笑顔でヘビを手づかみしていた!!」など驚きの声も聞かれました。



ヒノキのおがくすからはいい香りが..

技術職員等試験研究・研修会議

秩父演習林

平成 19 年度技術職員等試験研究・研修会議が、10 月 31 日（水）～11 月 1 日（木）に秩父演習林で開かれました。日頃の業務の成果をまとめた研究発表 11 題と広嶋講師の講義がありました。発表は林木育種や造林について、鳥の生態、魚の遺伝子解析、市民教育の実施、造林補助金の活用、温室管理など多方面にわたって行いました。テーマの幅の広さは、多様な研究材料があり業務の守備範囲が広い演習林ならではのということでしょう。発表にあった GIS 実用化に必要なものは「根性・努力・金」であるという言葉に、参加者一同、総てに通じるとうなずく一幕もありました。秋晴の 2 日目は、紅葉の滝川軌道跡でガイドの研修を行いました。参加者は 34 名で、初めて演習林以外の附属施設（緑地植物実験所）から 2 名が参加されました。



滝川軌道跡で紅葉を見ながらのガイド研修

本年9月初旬に、北海道演習林7林班に設置された前山長期生態系研究サイト（標高622～680m）の調査が演習林所属の教職員・院生諸君の応援を仰いで行われました。同研究サイトは1992～93年の2ヶ年にわたって設置されたもので、92年には24.75ha（面積50×50m 99区画）、93年には11.5ha（同46区画）、計36.25ha（同145区画）の国内最大の調査プロットが設置されました。同研究サイトの森林は、トドマツ、エゾマツ、シナノキをはじめ、樹種数39種、25,000本ほどの樹木（直径5cm以上）によって構成されています。最近70年間全く伐採等の人為的な攪乱が入っていないことから、そのデータは以下の研究課題①人手の加わらない天然林の長期動態の解明、②択伐施業林分との組成・構造の比較、③老齢過熟林分の多面的評価、④気候温暖化等の環境変化が天然林の組成・構造に及ぼす影響などの解明にとって、きわめて重要な意義を有するばかりでなく、北海道演習林で約半世紀にわたって実施されてきた天然林択伐施業法を科学的に評価するうえでも、重要かつ不可欠であることは言うまでもありません。

今回、上記の99区画（40区画は5年間隔で4回目、59区画は10年間隔で3回目）の調査が終了したことになります。2008年には残りの46区画の調査が予定されていますが、今後も長期にわたって調査を継続したいと考えております。



調査風景（調査対象木の直径測定、測定位置のペンキ塗りかえ等を行う）

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

- | | |
|--|---|
| <p>9月</p> <p>9日 公開講座「鳥の巣箱作りと観察」①(愛知)</p> <p>10～21日 東京大学共催「Intensive Program on Sustainability (IPoS 2007)」(北海道)</p> <p>10～13日 全学体験ゼミ「森林の保健休養機能」(富士)</p> <p>11～14日 全学体験ゼミ「野生動物の保護管理」(千葉)</p> <p>18～19日 全国大学演習林協議会秋季総会(研究部)</p> <p>25～28日 全学体験ゼミ</p> <p>「北方針広混交林と天然林施業を学ぶ」(北海道)</p> <p>25～28日 全学体験ゼミ「徹底検証『秩父』」(秩父)</p> <p>25～28日 全学体験ゼミ「森林生態研究の現場からの発見」(愛知)</p> <p>25～28日 全学体験ゼミ「森に学ぶ」(樹芸)</p> <p>29～30日 大学等地域開放事業「子ども自然塾」(北海道)</p> <p>10月</p> <p>14日 公開講座「奥秩父の亜高山帯の森林を学ぶ」(秩父)</p> <p>15～18日 東京大学技術職員研修(樹木医学関係)(田無)</p> <p>20,21,27,28日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)</p> <p>20日 せと環境塾(愛知)</p> <p>31日 坂畑小学校 校外学習(千葉)</p> <p>11月</p> <p>3,4,10,11日 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)</p> <p>3,4日 木が香る秩父フェスティバルに参加(秩父)</p> <p>4日 子ども樹木博士・休日一般公開(田無)</p> | <p>11日 公開講座「鳥の巣箱作りと観察」②(愛知)</p> <p>15日 天津小学校6年生 職場体験(千葉)</p> <p>18日 親子でふれ合う「秋の里山散策会」(愛知)</p> <p>18日 シンポジウム「南伊豆の風景探し」(樹芸)</p> <p>23,24,25日 秋の一般公開～紅葉の猪ノ川渓谷へ～(千葉)</p> <p>23日 休日一般公開(田無)</p> <p>12月</p> <p>1,2日 秋の一般公開～紅葉の猪ノ川渓谷へ～(千葉)</p> <p>1～2日 全学体験ゼミ「年輪を読む」(富士)</p> <p>2日 公開講座「落ち葉の下の生き物たち」・休日一般公開(田無)</p> <p>3日 稲梓小学校第2回森林教室(樹芸)</p> <p>8日 公開講座「野鳥の巣箱をかけよう」(千葉)</p> <p>8日 総合科目「冬の森林学」日帰りコース(秩父)</p> <p>8日 公開講座「鳥の巣箱を作ろう！」(樹芸)</p> <p>8～10日 第20回 日本の森と自然を守る全国集会(愛知)</p> <p>9日 影森祭(秩父)</p> <p>15～16日 総合科目「冬の森林学」宿泊コース(秩父)</p> <p>1月</p> <p>19日 演習林(静寂の冬の森)を歩こう(千葉)</p> <p>31日 稲梓小学校第3回森林教室(樹芸)</p> <p>2月</p> <p>19～22日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」(樹芸)</p> <p>26～29日 全学体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」(樹芸)</p> |
|--|---|

お知らせ シンボルカラー が決まりました 広報情報室

この度、科学の森教育研究センター・各演習林・研究部の個性を表現するシンボルカラーを選定しました。出版物やホームページなどで使っていききたいと思いますのでよろしくお願いします。

科学の森教育研究センター：緑
森林およびシンボルマークの色。

千葉演習林：萌黄色
千葉演習林の照葉樹林の新緑の色。

北海道演習林：瓶覗^{かめのぞき}
少し青みがかった雪のイメージ。

秩父演習林：秩父紅どうだん
チチブドウダンの花の色。

愛知演習林：梔子色^{くちなし}
犬山に自生のクちなシがある。瀬戸市の主要産業である窯業の土をイメージさせる。

富士演習林：瑠璃色^{るり}
山中湖と富士山の色。

樹芸研究所：オレンジ
暖かい、演習林で一番若い光のイメージ。

田無試験地：桜色
春の代表的な花として親しまれているサクラの花の色。

研究部：紺瑠璃
父なる山を管理する各演習林をとりまとめる母なる海のイメージ。

名所名物案内

猿投山（さなげやま）

愛知演習林

標高 628.9m、山頂に一等三角点がある、東海地方や山好きな人には有名な山です。愛知演習林赤津研究林の南端に位置し、山頂を含む赤津研究林の南側境界付近には東海自然歩道が通っており、平日でもハイキングを楽しむ市民を見かけます。

また古くから山嶽信仰・巨石信仰の場として崇められてきた山でもあり、山頂から南東に徒歩 15 分ほどのところに猿投神社の東宮があります。猿投神社の社蔵書によると山名の由来は、「景行天皇が伊勢国へ赴いた際に、可愛がっていた猿が不吉な事を行ったので、海へ投げ捨てた。その猿が今の猿投山に籠もって住んだとされることから、「猿投」と呼ばれるようになった」とされています。

演習林にとっても猿投山は重要な山で、その北斜面約 88.6ha が 1929 年から量水観測が続いている白坂量水堰集水域*となっています。また山頂には愛知演習林内で数本しかないミズナラ、山頂直下の北斜面にはアカヤシオ、シロヤシオやツガ、イヌブナなど主に冷温帯に分布する樹木、ミカワショウマなどこの地域の希少植物が見られる貴重な場所となっています。最近では全学体験ゼミナールや公開講座などで訪れる機会が増えてきています。皆さんも何かの機会に登ってみてください。



猿投山山頂から望む紅葉

科学の森ニュース (UT University Forests News) 第 40 号 (No.40)

発行日 平成 19 年 12 月 10 日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 下村彰男

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

編集人 山本博一

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2007@uf.a.u-tokyo.ac.jp